

公民館の家庭教育支援事業の活性化について
(中間答申)

令和3年7月26日

成田市公民館運営審議会

はじめに

令和3年1月29日に開催された「令和2年度第2回公民館運営審議会」において、成田市公民館長から成田市公民館運営審議会(以下「公運審」という)に対し、『公民館の家庭教育支援事業の活性化について』が諮問されました。

これを受けて、公運審では令和3年3月1日より自主的に勉強会を開催し、意見を出し合い、その成果を中間答申としてまとめました。

勉強会は、

- 第1回 令和3年3月1日(月)
- 第2回 令和3年3月27日(土)
- 第3回 令和3年4月10日(土)
- 第4回 令和3年4月24日(土)
- 第5回 令和3年5月8日(土)
- 第6回 令和3年5月22日(日)
- 第7回 令和3年6月6日(日)
- 第8回 令和3年6月20日(日)
- 第9回 令和3年7月4日(日)

の計9回実施し、その中で私たちは公民館の目的や役割、公民館事業についてなど、委員としての自己啓発のための勉強をしつつ、その上で公民館についての様々な議論を交わし、「家庭教育の支援事業」につながるアイデアを出してきました。

とても活発な意見交換や議論が交わされる中で、今の公民館が抱える課題についてもみえてきました。

公民館が、「もっとよくなるために」「もっと使ってもらえるように」「必要だと思ってもらえるように」なるには、どういうことが必要なのか。

『家庭教育支援事業の活性化』について、具体的なアイデアを検討する中で出てきた公民館の課題、これからの公民館に求められるものについても、この答申書の中にまとめています。

共働き世帯やシングル世帯も増え、シニア世代も社会でどんどん活躍を続けているこの時代、家庭教育や子育て支援に関して公民館に求められるものは、まずは子どもの居場所となれることなのではないか…。そんなふうに思うようになってきました。

子どもたちの元気な声が聞こえる世界は、未来に光が見える世界です。

子どもたちの元気な声が響き渡る公民館であって欲しいと思います。

公民館が子どもの居場所になれば、そこはおのずと「家庭教育支援事業」の場となり、公民館が存在する意義が明確になります。

そのために、公民館はどうしたらよいのか、どう変わっていくべきなのか、そんなことを考えながらの勉強会でした。

「家庭教育支援事業の活性化」とともに、さらによりよい公民館、市民に必要とされる公民館になるよう、中間答申として報告をさせていただきます。

I 成田市の公民館について ―現状と課題―

公民館に対する印象やイメージ、どうしてそのようなイメージを持たれているのか話し合っていく中で、今の公民館が抱える課題が少しずつ見えてきました。

この課題を解決するために何ができるのか、出てきたアイデアについてまとめました。

1 成田市公民館の現状

(1) 公民館の印象・イメージ

公運審の委員から出た公民館に対するイメージです。

- ・名前は知っているけど、何をしているのかわからない
- ・公民館という言葉あまり聞かない
- ・公民館からの情報をほとんど目にしない
- ・高齢者が集まる施設、若者がいない
- ・サークルに入っている人だけが利用するところ
(サークルに入っていないと行かない)
- ・利用しにくい、入りづらい、敷居が高い
- ・小さな子どもは騒げない、静かにしていきやいけない場所

公民館がほとんど知られておらず、また、知っていても何をしている所かわからないし、サークル活動している人や高齢者しか利用していないなど、ネガティブな印象が多くあがりました。この意見は「公運審」の委員、いわば公民館の身内からの意見であることから、一般市民にはもっと遠い施設であることがわかります。

(2) どうしてそのようなイメージを持たれているのか

この原因がどこにあるのか、「成田市はどのように公民館を見ているのでしょうか」

◆成田市における公民館の位置付け

2017年3月に策定された「成田市公共施設等総合管理計画」では、成田市の公民館は「市民文化系施設」に分類されています。

公民館は社会教育施設として、「社会教育系施設」に分類すべきではないでしょうか。

「国際文化会館」や「文化芸術センター(スカイタウン)」と同じように、公民館が、サークル活動などのために部屋を貸し出しているだけの『貸館』と市民から認識されている原因のひとつが、ここにもあるのではないのでしょうか。

◆公民館の単独性

公民館事業は、地域や各世代の多様な課題に対しての、解決や啓発につながることを求められます。しかし、事業を行う上で他施設や市役所の他部署との連携が見られず、単独事業が多くなっているようです。

公民館はなにをすべき所なのか、市の体系的な政策の枠にきちんと位置付けられて

いないのではと感じられます。

外からはまるで公民館が「陸の孤島」のように見えます。

◆公民館の情報発信の弱さ

公民館のイメージの中に

- ・名前は知っているけど、何をしているのかわからない
- ・公民館という言葉あまり耳にしない
- ・公民館からの情報をほとんど目にしない

という意見がありました。

現状の公民館の講座・イベントの案内は、「広報なりた」や「公民館だより」に掲載するなど紙を主とした方法のため、新聞をとっていない現代の子育て世代に情報を効果的に届けているとは言いにくいようです。

相手の立場に立った情報発信の工夫がされているのだろうかと感じます。

行政が公民館を本来の「社会教育施設」として見ていないと、市民が「公民館は部屋を貸しているところでしょ」「サークルに入っていないから関係ないや」、などと思う原因になります。

行政自らが公民館は地域の社会教育を担う大切な施設であり、そのための連携や情報発信の強化などを、見つめ直す必要があるのではないのでしょうか？

公民館事業を、もっと家庭教育を含む子育て支援や学校教育の場に生かし、公民館が本来の役割を果たすことで、市民に知っていただき、利用される社会教育施設になるのだろうと思います。

2 成田市公民館の課題 —解決案と提案—

公民館の抱える課題について議論していく中で、これからの公民館には『手をつなぐ』こと、『知ってもらおう』ことがとても大切だという意見が出てきました。

この2つを柱に、これからの公民館や家庭教育支援事業の活性化について議論したことを、解決案・提案等としてまとめました。

手をつなぐ

市関係部署・他事業・学校・他団体などとの連携

(1) 市関係部署との連携

①『子育て支援課』『生涯学習課』『健康増進課』など、市の子育てや健康、家庭教育などを取り扱う部署としっかり連携を図る

- ・それぞれの課での活動の際に公民館での講座や事業などをPRする。
- ・子育て支援課や生涯学習課、健康増進課などと連携して講座を開く など…。

単独で事業を行うだけでなく、横のつながりも大切にしながら事業を行うことで、今以上に幅広い活動ができるようになり、子育て世代へ公民館の活動を広く周知してもらえるようになるのでは？

- ②「なりすく」などで公民館事業を取材してもらい、活動内容をどんどん発信する。

◇公民館は気軽に行ける学びの場所だということを、市の子育てや健康・家庭教育事業のいろいろな機会を捉えてお知らせしていくことが重要だと思います。

(2) 公民館が学校と地域の橋渡しとしての役割を担うこと

①公民館と学校の連携

現状、学校の活動で公民館の予約を取りたい場合、学校から直接公民館の予約を取ることができず、教育指導課を通して予約するという手順になっています。家庭教育学級等で公民館を利用したい場合も同じです。

この予約システムからも、学校にとっては公民館がとても遠い存在になっています。
→学校から直接、気軽に公民館の予約が取れるようにしたり、また、公民館の職員の方が学校に出向き、いろいろな情報交換をする機会を持つなど、家庭教育支援の役割を担う施設同士、互いにできることがあるように思います。

②学校と地域の橋渡し

学校で必要なボランティア、例えば読み聞かせやミシン作業のお手伝い、放課後の見守りなど、地域の力を活かした教育支援が必要とされている今、公民館が学校と地域の橋渡しの役割を担い、ボランティア派遣の拠点となり活動することが求められているのではないのでしょうか。

→今の学校教育の現場では、「地域のボランティアを集めて学校教育をサポートしてもらおう」という形を築いていくのは、ほぼ不可能だと思います。この現状を捉え、社会教育を担う公民館が『地域コーディネーター』の拠点としての役割を担うことができれば、学校教育の充実を図ることができ、それが子どもたちの直接的な支援になっていくと思います。

- ③学校と公民館がもっと密に、近い存在になることができれば、公民館が行う子育てや家庭教育支援の事業についても、マチコミなどを通して広く子育て世代へお知らせすることができるようになるのではないかと。

→子どもたちの教育に携わる機関として学校と公民館がもっと近くに、共に手を取りあって、情報共有したり、発信したりできるようになることを望みます。

◇公民館は社会教育施設として、学校と連携し学校教育や家庭教育を支えることは重要な役割だと考えます。

成田市には、各中学校区にそれぞれ地区館が存在します。この地区館が拠点となって学校と地域の橋渡しの役割を担って欲しいです。

(3) 各地区の区長との連携

各地区の区長と連携を図り、市民の生活圏内にある共同利用施設や地域の人材を上手に活用することで、子育て講座、家庭教育支援事業などを効果的に開催できる。

◇わざわざ中央公民館まで出向かなくても、近所の施設で楽しい講座やためになる講座・子どもたちのイベントなどがあると、気軽に公民館事業に参加することができます。

学びの場が近くにあるというのは、何より、市民にとってはうれしいことだと思います。

◇学校との連携とともに、区長との連携がとれば、小学校へのボランティアの人材確保や管理もスムーズになるのではないのでしょうか。

(4) 子育てボランティア団体・子育てサークルなどとの連携

①成田市には、子育て支援を目的とするボランティア団体やサークルがたくさんあり、音楽・あそび・おもちゃ…それぞれに特化した内容で本格的な活動をされています。しかし、それぞれの団体がそれぞれ単独で活動しているのが現状です。

公民館が、団体同士の意見交換の場やノウハウの共有など、橋渡しの役目を担うことで、公民館を拠点に点と点の活動が線として繋がり、さらに面となり、公民館を中心に子育てや家庭教育支援の輪がさらに広がると考えます。

公民館のイメージも『子育てに悩んだり、困ったりしたら公民館』と変わっていくのではないのでしょうか。

②さらには、団体の方に講師になっていただいたり、講座を開いていただくことができれば、公民館自体の家庭教育支援事業の充実にもつながっていくと思います。

《講座のアイデア》成田おもちゃクリニック

『だれでもおもちゃのお医者さん♪

～おうちで治せる魔法の治療法～』 など

親子で簡単なおもちゃの治し方を学ぶ講座。おもちゃが壊れても、親子で修理ができるコツを伝授してもらおう

このように、公民館が市関係部署だけではなく、学校や各地区の区長・子育て支援団体など、いろいろなところと手をつなぎ連携することで、公民館事業や活動の幅がぐんと広がり、公民館が子育て支援や家庭教育支援の役割をしっかりと担っていけるようになると考えます。市民にとっても、さらに身近に公民館を感じてもらえることができ、気軽に公民館を利用するきっかけになるのではないのでしょうか。

知って
もらおう

公民館情報の発信方法・タイミングなどの刷新

子育て世代にもっと公民館を利用し、学習機会や出会いの場として活用して欲しいので

あれば、情報の発信方法やタイミングが重要です。

以下のような方法を考えてみました。

(1) SNS の(積極的な)活用

→公民館の Facebook・Twitter などのアカウントを取得。

- ・転入世帯には、市役所での手続きの際に公民館の SNS フォロー案内のチラシを配布。
- ・乳幼児健診の時にも、案内チラシを配布。
- ・中高生には、学校を通して公民館の SNS 登録案内を実施。

このように、いろいろな方法で多くの人に登録をしてもらい、毎日公民館から新しい情報が流れてくるような仕組みを作る。

【配信の例】

学習室の利用状況について…「本日空いています！」

「今日は〇〇会議室を自習室として開放しています」など。

その他、イベント・講座案内や実施報告などを写真や動画を織り交ぜて、目につきやすく興味を持たせるような形で配信。

(2) 乳幼児健診の時に PR

→乳幼児対象の講座やイベント・家庭教育支援事業等は、子育て支援課や健康増進課などと協力し、乳幼児健診の時にチラシや案内を配布し、公民館も子育てを応援している施設であることをしっかりと PR する。

(3) 学校のマチコミを活用

→小・中学校世代対象の事業に関しては、学校と連携し、学校を通してマチコミを活用することで、広く公民館の事業や取り組みを知ってもらえる機会になる。

(4) わくわくするような楽しい「講座名」や「キャッチコピー」に！

→「講座名」や「キャッチコピー」は、いろんな人に興味を持ってもらうためにも大切な要素です。

講座名などにもしっかりとこだわり、興味がわくような見せ方・伝え方の工夫が必要だと考えます。

『待っているだけの公民館ではなく、どんどん発信する公民館へ。』

タイムリーで新鮮な情報をどんどん発信していくことで、公民館への興味関心をまず持ってもらおうこと、『家庭教育支援事業の活性化』を考えるのと同時に、公民館自らが変わっていくことも求められているのではないのでしょうか。

II

幼稚園・保育園・こども園・学校での家庭教育学級と 公民館での家庭教育支援事業

成田市の幼稚園・保育園・こども園・学校等で行われている「家庭教育学級」と、公民館での「家庭教育支援事業」について、それぞれの利点や問題点を話し合いながら、幼稚園・保育園・こども園・学校等での家庭教育学級の場において公民館ができることはないか、公民館の家庭教育支援事業の活性化に繋がることはないか考えてみました。

1 幼稚園・保育園・こども園・学校での『家庭教育学級』

(1) 良いところ

- ①園や学校で開催されることも多く、参加しやすい。
- ②保護者同士の交流の場として大切な場所になっている。
 - ・友達と誘い合わせて気軽に参加できる。
- ③テーマを役員が考えることができる。
 - ・食育など、学校ならではの課題にアプローチできる。
- ④新聞の作成で活動の報告ができる。
 - ・大変な側面もあるけれど、役員のみんなで作るのは楽しいし勉強になる。
 - ・参加できなかった保護者に対しても学級内容を伝えることができる。

(2) 課題

- ①前年度のくり返しになることが多い。
 - ・何もないところから運営委員会を立ち上げるため、テーマが前年度の繰り返しになってしまう。
- ②「学ぶ」よりも「レクリエーション」に特化しがち。
 - ・内容を考えるのが役員に任されているので、楽しいレクリエーションの企画が多く、「家庭教育」の「学ぶ」側面が希薄になりがち。
- ③平日開催のため、参加できる保護者が限られる。
 - ・仕事をしている人などは参加しにくい。
(参加している人はいつも同じ…ということも)
- ④家庭教育学級の役員への負担感が大きい（リーダーの不足）。
 - ・年間数回にわたって行う企画の発案・運営はなかなかしんどい。
- ⑤扱いにくいテーマがある。
 - ・性教育のことなど、テーマに取り上げにくいものがある。

2 公民館での家庭教育支援事業

(1) 良いところ

- ①開催日程の自由度が大幅に広がる。
 - ・土日の開催も可能。

- ②乳幼児を持つ家庭に向けての講座開催もできる。
 - ・幼稚園や保育園、こども園、学校に通っている家庭に限らず、それらに通っていない家庭に向けての講座が充実している。
- ③目的を持った学級の開催ができる。
 - ・公民館の職員が企画に参加したりするため、意図的・計画的に目的を持った講座として企画できる。
- ④多様な保護者の交流の場。
 - ・幼稚園、保育園、子ども園、学校で行う「家庭教育学級」は、園・学校単位で実施するため、保護者の交流が限定されるが、公民館で実施する場合は、広い範囲から参加者が集まるので交流範囲も広がる。
- ⑤いろいろなことをテーマに取り上げられる。
 - ・性教育のことなど、学校では取り上げにくいものもテーマにできる。

(2) 課題

- ①公民館が計画して実施するため、事業に偏りができてしまう。
 - ・幼児期の親子遊びや、子どものみの参加事業に偏っている。
- ②保護者への講座が実施されていない。
 - ・保護者対象の学びの場・子育て講座・思春期子育て講座などは現状ない。
- ③時代に対応した事業ができていない。
 - ・ずっと同じ内容の講座になってしまっている。

Ⅲ 成田市公民館の家庭教支援事業の活性化について

家庭教育支援事業の活性化については、「幼稚園・保育園・こども園・学校での家庭教育学級」と「公民館での家庭教育支援事業」の「問題点」を「公民館」として解決していくことが、「家庭教育支援事業の活性化」につながります。

1 家庭教育学級において公民館としてできること

幼稚園・保育園・こども園・学校等での家庭教育学級について、いろいろな問題点が出されました。

この問題点に公民館がアプローチし解決の一助になることができれば、学校等での家庭教育支援をさらに充実させ、公民館が掲げる家庭教育の支援につながります。

それぞれの問題点に対して公民館にできること、公民館に頑張りたいことなどを話し合いました。

課題① 前年のくり返しになることが多い

◇**解決案①** 家庭教育学級の講座の一部を公民館が担当し、役員の負担を軽減しながら、一味違う家庭教育学級を開催する。

《講座のアイデア》

成田市の給食が公民館に集う

—いろいろな学校の給食が食べてみたい☆—

家庭教育学級で給食センターへ見学に行くところも多くあるようですが自分たちの学校以外の給食は、なかなか食べる機会がありません。

そこで、各給食センターの方にも協力していただき、公民館に各給食センターの自慢の給食を公民館に集結。給食の味比べをしながら、給食が抱える問題、残菜のことや栄養のこと、給食センターの方の思いなどを学習する講座。

◇**解決案②** 希望があれば各学校、幼稚園、保育園、こども園の家庭教育学級の話し合いに公民館の職員が参加する。

講座のアイデアを出したり、講師の紹介をしたりするなど、家庭教育学級を担当する役員のみなさんが、負担なく、楽しく新しい企画もどんどん進めることができるように、アドバイザーや相談役の立場で公民館がサポート。

※これは、「学ぶ」よりも「レクリエーション」に特化の問題の解決にもつながると思います。

課題② 家庭教育学級の役員への負担感が大きい（リーダーの不足）

◇**解決案** 公民館で「家庭教学級のヒント」のような感じで、役員が決まった早い段階で公民館が講座を実施。

『何をすればいいのかわからない』『どんな講座を開けばいいのかわからない』

『大変そう』と感じている家庭教育学級の役員になった方の不安が、『楽しい！！』

『やってみたい』に変わるような講座を開く。

※生涯学習課とコラボできるとさらにいいと思います。

以上のような解決案が出てきました。

生涯学習課が担当する家庭教育学級だから、公民館は関係ないというスタンスではなく、家庭教育支援事業の活性化のため、ためらわず家庭教育学級へもどんどん入っていてもいいのではないのでしょうか？

2 公民館での家庭教育支援事業の改善

学校等を会場に実施される「家庭教育学級」への支援を含み、公民館での家庭教育支援事業についても、課題を解決していくことが必要です。

課題の解決については

①市役所内にとどまらない、多様な部署・団体との連携

②情報発信方法の刷新

③園や学校の家庭教育学級の支援

④公民館独自の家庭教育支援事業としての具体的な講座やイベント企画実施

などが重要なのではと、委員からの意見がありました。

④の具体的な講座やイベントについては、

◆対象年齢にあわせた幅広い事業を行う必要性

- ・乳幼児の保護者、小学校低学年及びその保護者、中学生及びその保護者、思春期の保護者など対象を細分化して事業を計画など

◆学校現場で実施がなかなか難しい事業

- ・性に関すること…保護者はどのように伝えていけばいいのかなどの保護者も「学ぶ」講座
- ・子育てに関する多様な講演会
子育てのこと、思春期のこと、SNSのこと、お弁当のこと、栄養のこと、様々な視点から子育てに関して話題になっている講師の方などを呼んで欲しい
- ・地元企業とのコラボ企画のさらなる充実

など勉強会の中で話されています。

さらに、公民館が家庭教育支援の場であるなら「公民館に常勤の保育士を！」との意見が強く出されました。

『公民館に保育士の資格を保有した職員の方が常勤でいてくださると、乳幼児の保護者は安心して公民館を利用できます。』

「公民館で学びたい」「サークル活動で自分の時間を有意義に過ごしたい」と思う子育て世代の保護者にとって、公民館に保育士を配置することで公民館が子育てのよりどころとなるのではないのでしょうか。

保育士さんとの他愛のない会話から日々の子育てのヒントをもらえたり、ほっと一息つけたり……。常勤の保育士を通して公民館が子育ての交流の場となれることを切望します。』との委員からの切実な願いです。

さらに付け加えるなら、地区館への常勤職員の配置等の検討も避けては通れないと思います。

今後これらの4つの要素について、より具体性を持った提案として本答申に盛り込めるよう、検討を進めていきたいと思っています。

また、このご時世、仕事や家庭の都合で家庭教育学級に参加できないという家庭が大多数だと考えられます。このような世帯へ効果的なアプローチを試みることができるのも、職員が配置され、自前の施設を持つ公民館だからこそです。

こういった世帯の方たちにこそ、公民館の家庭教育支援事業を届けて欲しいと切に願います。

1 一般市民の方からの意見の収集

(1) 意見収集の目的

家庭教育支援事業の活性化について勉強会を進めていく中で、委員の意見からよく出てきていたことが、

- ・今、子育てをしている保護者が不安に感じることは何かな？
 - ・どんなことに興味があるのかな？
 - ・家庭での不満は？あるかな？ あるとしたらどんな不満？
- ということでした。

具体的な事業の提案をするにあたり、実際に子育て真っ最中の保護者のみなさんの生の声、本音に耳を傾けなければ、本当に意味のある家庭教育支援事業の活性化の提案はできないと考えました。

そこで、市民のニーズをとらえた提案ができるよう、多方面から意見を聞くとともに、子育て世代の保護者へアンケートを実施することにしました。

(2) 意見の収集方法

広く意見を収集するには、いくつかの手法があります。

一般的には、成田市でも実施している「パブリックコメント」がありますが、答申までの時間の制限と費用の問題があり、今回は採用しないこととします。

今回は、成田市がインターネットで実施している「インターネット市政モニター制度」を利用します。

また、「中間答申」を市のホームページにアップし、広く意見を求めることも考えています。

その他、子育てサークルや子育て団体等、さらに学校での家庭教育学級へのアンケートも実施する予定です。

(3) 意見の収集におけるアンケート内容

「インターネット市政モニター制度」でのアンケート内容と、コアな対象へのアンケートでは若干異なる内容で実施します。

◆「インターネット市政モニター」へのアンケート

「市政モニター」へは、性別や年代、住んでいる地区や、公民館を利用したことのあ
るなし、利用した場合その目的等、一般的な質問で、公民館がどの程度市民に浸透し
ているか基礎資料としてのデータを収集します。

◆子育てサークル・団体等へのアンケート

アンケート内容や実施時期、方法については、勉強会の中で検討中です。

(4) スケジュール

①市民からの意見を求める

◆成田市のホームページに中間答申書を掲載

※アンケート実施の協力をお願いする内容も同時に掲載

◆8月初旬「インターネット市政モニター制度」でのアンケート収集を実施

◆子育てサークルや子育て団体等へのアンケートを実施

◆子育てサークルやボランティア団体の方との対面での意見交換会を実施予定等を計画しています。

②市民の意見をまとめる

アンケートや意見交換会等で収集した意見を取りまとめる。

③収集した意見と中間答申でまとめた委員の意見などのすり合わせを行う

2 本答申に向けて

今後も自主的に勉強会を継続し、市民からの意見と委員の意見とをまとめ、市民目線・保護者目線で、「家庭教育の一層の充実を図るため、必要と思われる要素」について検討し、公民館に求められる家庭教育支援事業の活性化につながる答申として作成していく予定です。

なによりも夢のある答申となるよう、検討を重ねていきたいと思えます。

まだまだ、夢の途中です。

以上、成田市公民館運営審議会として「公民館の家庭教支援事業の活性化について」の
中間答申とします。

令和3年7月26日

成田市公民館運営審議会

会 長	木川 義 夫
副会長	佐々木 有希
委 員	麻生 辰浩
	日下 雄太
	関谷 真宏
	高木 麻由子
	中山 昭子
	葛生 泰子
	宮本 真由美
	長澤 成次